

「罪を敵として」

～すべてを捨てて！！告発者に注意～ ヘブル 12:11 ～ 17 I ペテロ 5:7 ～ 10

ある家庭で飼われている九官鳥はいつも「誰だ?！」としゃべります。この家のお父さんの怒って言う口癖が「誰だ?！こんなことしたのは?！」だったからです。私たちは癖・習慣をもっています。もし、あなたに飼われている九官鳥だったら、どんな言葉を言うでしょうか?教会では笑顔で上品な言葉を使えていても、家庭では違う態度や言葉を使っているかもしれません。あなたが使ってしまう口癖や習慣はどうでしょうか。

■ 罪を敵として ～全てを捨てて告発者に注意～

スコットランドの国歌でもあり、「神の御子にますイエス新聖歌 397番」という素晴らしい賛美があります。この賛美を通してみると、自分の人生の行いがどんなものであるかを感じます。歌詞は「①神の御子にますイエスのために罪を敵として立つは誰ぞ。すべてを捨てて従いまつらん わがすべてにます 王なる主イエスよ」②富の楽しみと地の位に目もくれずイエスにつくは誰ぞ。～」③罪に捕らわれし 魂をばイエスに連れ来る 勇士は誰ぞ。～」④わが持てるものは 主よ汝がもの、きよき御戦(みいくさ)に 用い給え。～」みなさんはこの4つの中で、どのことが人生の中心に置かれていますか?できるなら4つとも人生の中心に置くことが私たちの最後の目標ですが、すべてをいっぺんにはできないので、ひとつひとつ与えられた時間があり、その期間を生きるのです。しかし、そのようにして生きるのを妨げようとする者がいます。悪魔です。マイケル・フィーラー師は礼拝の説教の中で、悪魔とはどんなものかを伝えるために「サタンの手紙」を語り、悪魔がどんな思いで地上で活躍しているかを伝えました。「神は愛と善意に満ちた偉大な方であるが、私はあの方をねたんでいる。あの方を悪く見せること、神の造った被造物である人間を悪く見せることに時間を費やしている。私は神に、君たち人間の罪を告発することが大好きだ。サタンとは告発者・中傷者という意味である。神が愛する人間を、私ができるだけ多く地獄へ連れて行く罪人にすると神は傷つく。しかし、偽りからもたらされた死の呪いを上回るイエスの十字架の愛により、人々に永遠の命と救いがもたらされてしまった。私は、人が神を信じないようにすることに労力を費やす。神を失えば、人は自分の勝手な判断で動き、地上に戦争・犯罪等の地獄をもたらす。」悪魔とは賛美とは間逆の行為を私たちにさせたがっています。悪魔は嘘つきです。私たちを嘘つきにしたいのです。でもそれを嘘でないように思わせ、私たちは嘘で満たされていきます。悪魔は私たちの人生に巧妙に関わってきます。目の前に偶像を置き、クリスチャンにはそれに気をつけさせ、違うところに別の神様を造ります。その最大の神様は「自分」です。「私が中心である」という思い、それこそが最大の偶像礼拝です。ヘブル 12:15「苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたことをのこさない」の「苦い根」とは何でしょうか?申命記 29:18に、苦い根とは偶像礼拝だと書いています。アダムとイブがエデンの園で、神の方に従うのではなく、神でないものの方の言葉に従ったことが偶像礼拝の始まりであり、人に苦い根が植え付けられました。人は神様に「われわれに似るように造ろう」と造られました。神様の思いをもった者として造られたのです。あなたは神様の作品であり、良い行いをするために良い行いをも備えたと聖書に書かれています。それは、どんなこともうまくいくということなのです。詩篇 1篇に「主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ・時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える。」とある通りです。何をやってもうまくいかない人は、「悪者のばかりごとに歩んだ人」と書いてある人です。悪魔の悪巧みにだまされているのです。私たちは今まで自分の価値観の中、苦い根の中で生きてきました。自分を神とし、不安な時は見える別の神の偶像に頼ったり、人に頼ったり、悪魔の声を聞いたりしてきました。みんな・普通・集団という安心できる世界に生きてきました。しかしそれはダメだと分かり、180度向きを変えました。群衆のひとりであった私のところに、ザアカイの時のようにイエス様は目の前に来られました。イエス様と盲人は三度見つめ合い、盲人の目が癒され見るようになりしました。サウルは、イエス様の弟子たちを迫害していましたが「サウルよ、なぜ迫害するのか」というイエス様の声を聞き、目のうろこが落ち、神様に悔い改め、弟子たちは祈り見るようになりました。弟子たちは仕返しをする人間的な方法をとるのではなく、神様に言われた方法をとりました。私たちはケンカした時、自分は正しい悪くないと思っているので相手が謝るまでは謝らない方法をとっていませんか。恐いことに、私たちはだんだん慣れてくると、神様に儀礼的に会うようになってきます。神様は、悪い者から守られてほしいと願っています。あなたを幸せにし、与えた強みを引き上げて、イエス様の香りを放ってほしいのです。そう思って、悪魔が仕組んだのりをもって奇跡を起こしているのです。俗悪=目に見えないものを信じないこと。神の思いに立つて歩まなければいけません。

■ ①手を離せ あなたの物?

まず、「わたし」を捨てなければいけません!「自らのものを得

ようとするものはそれを失い、それを捨てるものはそれを得る」というのが聖書の大原則です。心に執着がありませんか。なんで私ばかり!とあなたの九官鳥は言いませんか。執着を手離してください。自分の主義主張が通らずふてる人、ちょっと人から言われ傷つく人は、あなたがあなたである証拠です。言葉・執着に気をつけなければいけません。傷つくのはプライドがあるからです。プライドがあるからつまづくのです。つまづかせるこの世は忌まわしいものだ聖書にありますが、置いてある石に勝手につまづくのはあなたです。アダムがイブを「あなたの造ったあの女が食え」と言ったから食ったんだ!」と言った時からプライドは始まりました。プライドは、自分を守ってしまうためのよろいです。しかし戦うのは神様なのです。万軍の主の熱心がこれを成し遂げると聖書にあります。これは主の戦いであり、御名によってすでに勝利しています。自分で戦うことを手離してください。

■ ②あなたは監督 目先のものに注意

マラソンのオリンピック金メダリスト高橋尚子選手は、自分は短距離走に向いてると思っていましたが、監督は長距離向きの体つきだと見抜きました。あなたも勝手に自分はこうだと判断していませんか?しかし、あなたを造ったのは神様なのです。あなたは本当はどのように造られたかは、神様に聞かないと分かりません。だましてそれを分からなくさせているのが悪魔です。毎週教会に来るのは、あなたがあなたのままでいることを保つため、あなたを愛するため、あなたの間違っているものを捨てさせるためです。隣人を見て、いいなあと羨ましがって比較したり憎むのはやめましょう。悪魔と同じです。「神様が造った隣人はすばらしいなあ。そして神様は私のことはこんな風にすばらしく造ってくれたんだなあ」と思いますか?そう思えると魂が踊り喜びます。また、大きな声で礼拝の賛美を歌うと魂が喜びます。神様は賛美のうちに住まわれます。悪口のうちにはありません。神の御前で大きな声で歌いましょう。日本領域に侵入した中国船が沈没したとき、日本の海上自衛隊は船員を助けました。韓国の CGTV は、教会の少ない日本人が見れるようにと設立されました。仕返しをせず助ける、これがクリスチャンの生き方です。でも今は神様が失われていっています。日本と外国の文化が違うだけで嫌たり争いが生じたりします。だから、自分をしっかり監督しましょう。客観的に見ましょう。そのためにはやはり、造った神様に聞かなければなりません。監督するのは、平和のためです。すべての人ととの平和を追い求め、また、望められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。(ヘブル 12:14) 私たちは平和のために生きています。平和を保っていますか?この一週間を振り返ると、あなたは平和をつくる人でしたか、トラブルを起こす人でしたか?人生を振り返ると、平和的に解決し回復していますか、あの人のせいだと言って何か問題が起きていますか?カッとなって怒ってそのままべらべら言葉を発すると争いが生じるので、気をつけてください。

■ ③あなたの強みに生きる

できないところを探す人生ではなく、神様にできると言われたことはどんどんする人生にしてください。オリンピック選手と私たちは、鍛え度が違うだけで、神様が造った同じ人間なので比較する必要はありません。あるオリンピック選手は他の選手の体操演技を見て、「ばくもできる」と励まされました。あなたが強みに生きるの、劣等感に悩んでいる隣人にあなたのできる姿を見て「私もできるんだ」と思わせるためです。神様にできると言われた時にやり、「あなたもできるよ」と隣人に言うだけです。神様に与えられた賜物があるので、やれば絶対にできます。しないだけです。できない理由を探すだけ、無理無理と言うだけです。神様が造った時はあなたは完璧でエクセレントグッドでした。あなたがあなたの強みに生きることが聖書の基本です。それをしなければ意味がありません。悪魔は「疲れたでしょ」と語りかけてきて、あなたは「疲れた、もうやらない」とやめてしまいます。残りの人生を、そういう風に生きて終わるのですか。天国は喜びと感謝にあふれる時間のずっとと流れているところです。天国に行く前に生きて地上で教会は、自分を喜びに満ちたて、つらい時は支え合い、前進して行くところです。そしてあなたは神様の栄光を現し、すばらしい神様の愛に満ちた人で、人々に喜ばれる人になって、天国と一緒に帰りましょう。

祈りましょう

わたしたちは今までトラブルを起こす人でしたが、これからは平和に解決します。私たちの心に平和を与えてください。地の上を平和で満たしてください。イエス様が地上にいられた最大の目的を見失わないようにしてください。その愛に感謝します。自我を捨て、全てを捨てて神様に従います。神様の愛の中で生きます。どうか私を用いて人々を幸せにしてください。

(要約者:高橋 奈津江)

(8月14日)